

避難の心得①

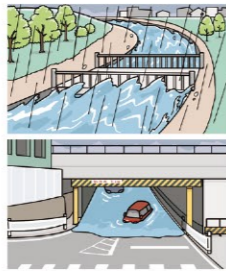
あなたの避難経路は？

近年の災害では、避難途中で被災するケースが多く、避難場所までの安全な経路の選択がとても重要です。下記に留意して、**マップ上に避難経路を想定し記入してみましょう。**また、実際に避難経路を歩いてみて、危険がないか事前に確認しておくことも、非常に大切です。

避難経路の注意点

危険箇所を避ける！

- ◆ 河川や用水路のそば、土砂災害の危険のある場所
- ◆ アンダーパスや地下道路（特に日ごろ浸水する場所）



事前の経路確認と早めの避難！

実際に避難経路を歩き、安全で避難しやすい経路と所要時間を確認しましょう。水害時、実際に避難する際は、できるだけ浸水が始まる前に余裕をもって避難しましょう。



避難は原則徒歩で!!

車での避難は緊急車両の通行の妨げや、交通渋滞をまねき、水害時は浸水すると動けなくなります。ただし、避難情報が出る前の早期の避難は、車の使用も有効です。



車で避難する場合の注意

- 高齢者や障がいのある方、妊婦や乳幼児のいる家庭などは、特に早期に移動する。
- 高架下やアンダーパスなど地面より低い場所を走らない。

避難について

立ち退き避難

災害が発生する前に、危険な地域から安全な指定緊急避難場所、親せきや知人の家などに徒歩で避難しましょう。避難先については、事前にしっかり検討しておきましょう。「**立ち退き避難**」が避難行動の基本です。

避難先

指定緊急避難場所

災害の危険から身の安全を確保するために避難する場所として、あらかじめ町が指定した施設・場所です。



親せき・知人宅・宿泊施設

避難所での3密を避けることから、親せきや知人宅、ホテルなどの宿泊施設への分散避難を検討しましょう。



屋内安全確保

ハザードマップ等で以下の**3つの条件**に該当する場合は、自宅に留まることも可能です。



屋内安全確保の3つの条件

- ① 浸水・土砂災害の危険エリアに入っていない。
- ② 想定浸水深より住んでいる場所が高い。
- ③ 水・食料等の備えが十分で水が引くまで我慢できる。

※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

早期避難の重要性

逃げ遅れて被害が拡大

過去の大規模災害において「被害を拡大させた要因のひとつ」として指摘されるのが「**逃げ遅れ**」です。風雨が強まると、避難する際にも危険な状況になりますので、その前に避難しましょう。早期避難であれば、移動手段の選択肢が増え避難に余裕が生まれます。

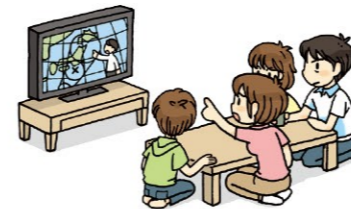
特に！「自分のいる場所は大丈夫」、「周りが避難していなかったから」など、非常時では心理的要因が作用するので注意しましょう！

避難しても被害がないこともあります。そのときは「何事もなく良かった。」と無事を確認しましょう。避難しなくて被害にあうことは避けられます。油断や過信は禁物です。命を守るための行動をしましょう。

避難時の注意ポイント

最新情報を常にチェック

台風や突然の豪雨等が発生した場合、進路予測や被害予想のより正確な情報をテレビ・ラジオ・インターネット等（7ページ参照）で収集しましょう。また、いつ起こっても対応できるように避難準備をしておきましょう。



浸水が始まる前に避難

自分が住んでいる地域や近くの川の上流で、豪雨や長雨が続けている場合は要注意です。特に、高齢者や障がいのある方など避難に時間がかかる方は、早めに避難することが大事です。



暗くなる前に避難

大雨が予想されるときは、明るいうちに避難しましょう。暗くなってからの避難は視界も悪く、陥没している道路や側溝などに気づかない場合があります。



避難前にすること

自宅の火災を防ぐために、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど火の元の確認をしましょう。また、家族や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



避難は徒歩で、2人以上で避難する

できるだけ1人の避難は避けましょう。また、お年寄りや子どもからは目を離さないようにしましょう。



避難は動きやすい服装で

- 靴はひもで締められる底の厚い運動靴や登山靴などが良い。
- ヘルメット・軍手や革手袋などで頭や手を保護。
- 長袖、長ズボンが良い。
- 荷物は少なく、非常持ち出し品は両手があくリュックがオススメ。



切れた電線や電柱は危険

切れた電線や損傷した電柱は、接触すると感電する恐れがあり危険です。もし見かけたら、絶対に近づかず、地域の管轄する電力会社に連絡しましょう。

